

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 1 0 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 1 0 月 3 1 日 )

調査期間：平成 1 9 年 1 0 月 1 8 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 6 卸売業 2 3 5  
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況 ( D I 値を集計 )  
および、業界として当面する問題など

D I 値 ( 景況判断指数 ) について

D I 値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成19年10月調査結果のポイント】

### **業況、売上、採算とも2カ月連続で悪化、仕入単価の上昇は8カ月連続**

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（33.6）よりマイナス幅が1.3ポイント拡大して34.9となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

産業別の業況DIは、製造でマイナス幅が縮小、小売で横ばいとなっているものの、他の3業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、気温低下の影響などによる売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、消費の低迷による売上減少などを訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「IT・通信関連の業種は好況」（電気工事）との声がある一方、「公共・民間工事量とも減少しており、厳しい業況が続いている」（建築工事）、「建築基準法改正に伴い、今後の着工件数のかなりの減少が予想される」（一般工事）との声が寄せられている。

【製造業】からは、「自動車部品関連は受注件数が増加している」（金属加工機械製造）との声がある一方、「仕入単価の上昇等、不安材料が多い」（製材木製品製造）、「競争による価格下落の影響を受け、厳しい見通し」（電子部品製造）との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「気温低下の影響で、冬物商品の売上が増加した」（繊維品卸売）との声がある一方、「業種を問わず低迷のまま推移」（各種商品卸売）、「相変わらず原材料等の値上げ要請で厳しい状況」（家具・建具等卸売）との声も寄せられている。

【小売業】からは、「衣料・寝具等の秋冬物の需要が増加傾向にある」（百貨店）との声がある一方、「仕入れ単価上昇の影響で、採算は厳しい見込み」（商店街）、「従業員が不足しており、人員確保が課題」（百貨店）との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「晴天が続き、来客数も好調」（喫茶店）との声がある一方、「原油価格の高騰による仕入単価の上昇が、業界全体の景況を悪化させている」（自動車整備）、「売上不振が続く」（その他の一般飲食店）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.3ポイント拡大して27.8となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売、小売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

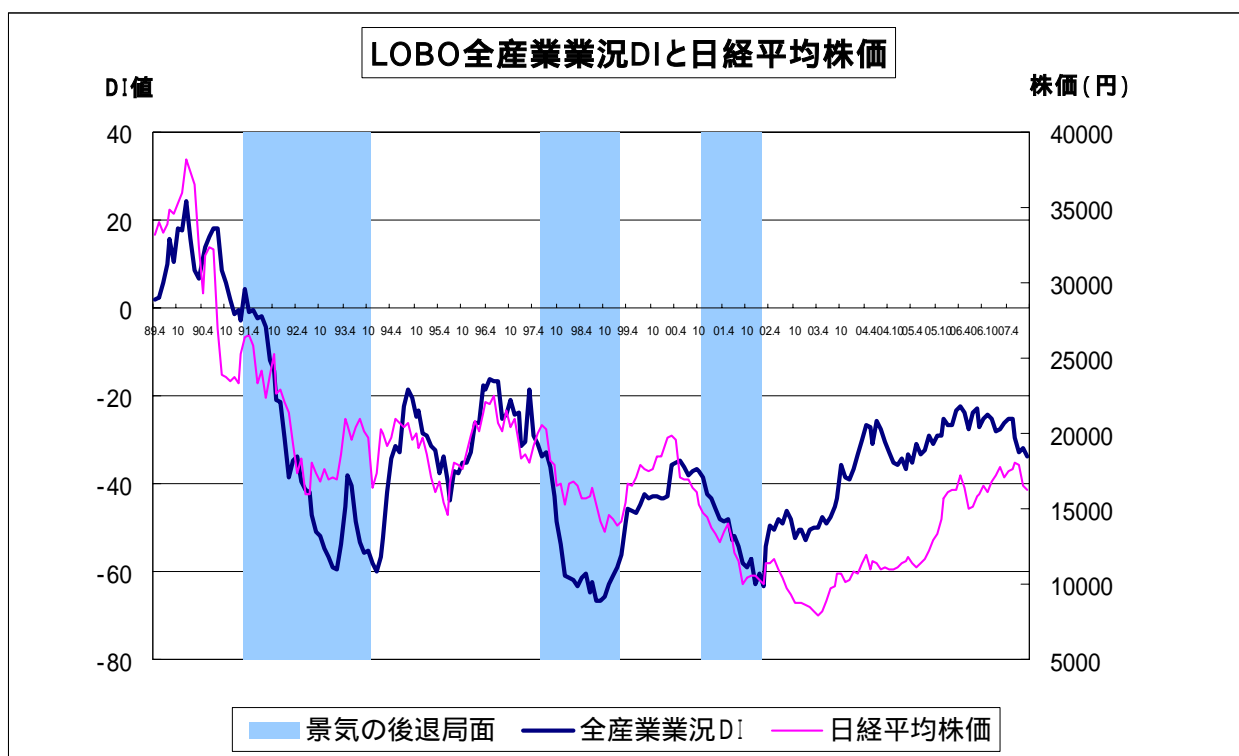
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.6ポイント拡大して33.5となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が2.1ポイント強まって21.8となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感製造で縮小したものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が1.2ポイント強まって35.9となり、8カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の上昇超感製造、卸売で弱まったものの、他の3業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、過剰超感が0.6ポイント弱まって0.3となり、3カ月連続で弱まった。産業別にみると、D I値は建設で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まったものの、製造で不足超感に転じ、サービスで横ばい、卸売で過剰超感が弱まった。

向こう3カ月(11月~1月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が29.8と、昨年同時期の先行き見通し(20.7)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（33.6）よりマイナス幅が1.3ポイント拡大して34.9となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

産業別にみると、製造でマイナス幅が縮小、小売で横ばいとなっているものの、他の3業種で拡大した。

向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が29.8と、昨年同時期の先行き見通し（20.7）に比べて悪化している。

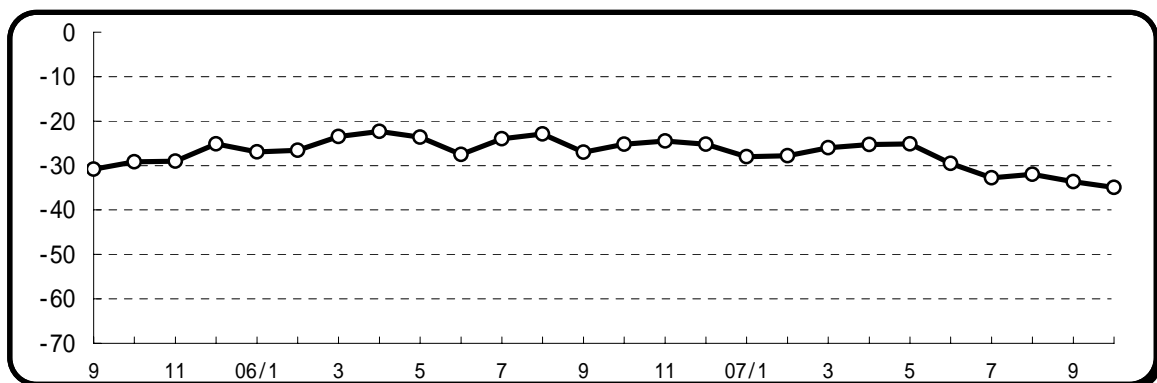
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	25.1	29.5	32.8	32.0	33.6	34.9	29.8 (20.7)
建設	40.9	46.0	43.5	44.3	45.4	47.2	46.5 (36.2)
製造	21.3	23.4	26.3	23.5	27.5	27.0	23.9 (14.8)
卸売	27.8	39.4	42.6	48.4	41.1	44.3	32.5 (20.5)
小売	22.3	26.5	31.4	31.1	33.8	33.8	29.3 (17.7)
サービス	20.9	24.5	30.8	27.9	29.1	33.0	24.9 (20.3)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年10月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.3ポイント拡大して27.8となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売、小売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

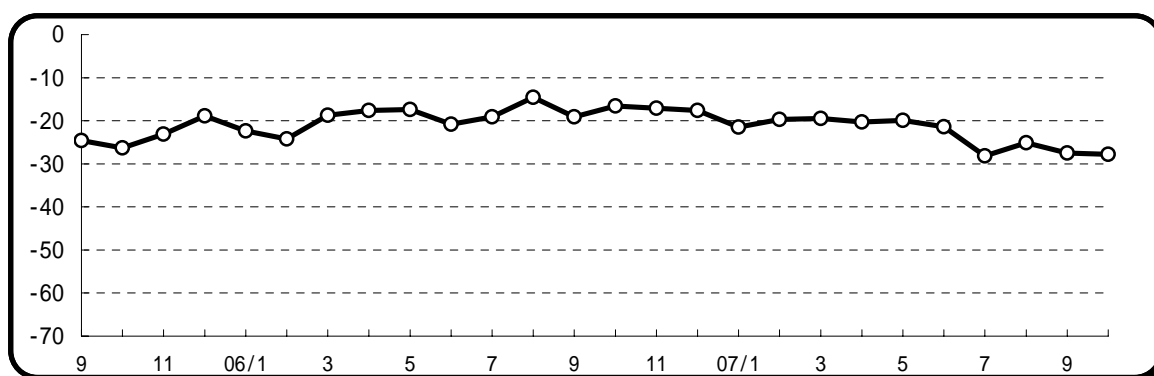
向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が20.2と、昨年同時期の先行き見通し(13.5)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	19.9	21.4	28.2	25.1	27.5	27.8	20.2 (13.5)
建設	37.8	37.9	34.3	37.9	37.5	39.8	41.6 (28.3)
製造	9.1	10.7	20.1	12.1	16.1	19.0	13.9 (5.1)
卸売	22.8	30.6	35.2	43.2	39.9	33.5	17.2 (16.7)
小売	20.0	19.7	31.2	27.7	30.8	29.7	20.1 (9.7)
サービス	18.4	20.3	26.5	20.6	23.8	24.7	14.4 (15.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.6ポイント拡大して33.5となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

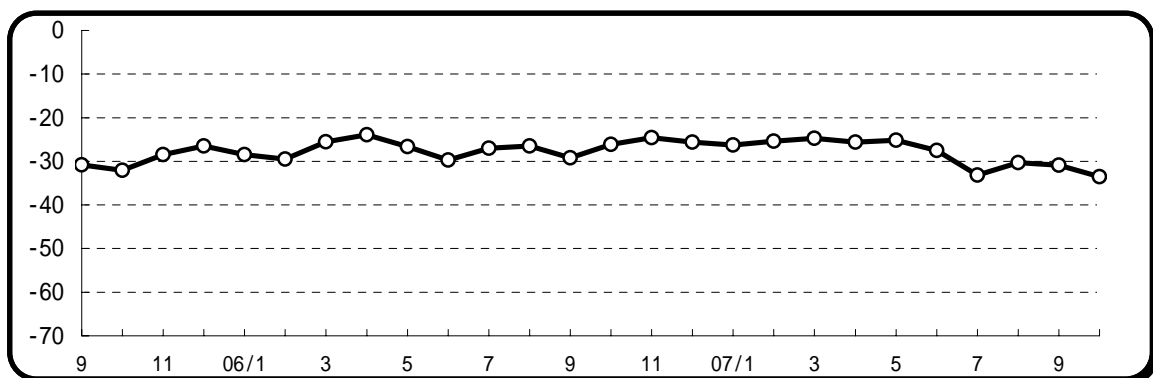
向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が25.8と、昨年同時期の先行き見通し(20.3)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	25.2	27.5	33.2	30.3	30.9	33.5	25.8 (20.3)
建設	45.2	44.3	45.7	40.2	43.8	46.3	43.7 (37.9)
製造	24.9	28.6	34.1	28.5	30.7	32.8	24.1 (16.3)
卸売	24.1	26.3	33.3	39.1	29.4	33.5	22.9 (18.6)
小売	17.8	20.9	27.1	27.3	27.6	30.6	23.8 (13.1)
サービス	22.0	23.7	31.3	25.8	27.4	29.4	19.8 (22.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	18.2	19.8	21.8	19.5	19.7	21.8	21.4 (18.2)
建設	33.6	34.3	35.5	34.6	35.1	37.6	39.0 (29.6)
製造	14.9	16.8	21.3	16.0	18.3	18.0	18.5 (15.1)
卸売	10.1	18.6	19.7	22.3	15.2	19.9	15.8 (16.3)
小売	15.7	16.8	18.1	18.0	17.8	19.3	17.9 (13.6)
サービス	16.8	16.1	17.1	12.6	13.7	18.2	19.4 (19.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、製造で悪化超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、卸売、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の3業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	28.4	30.1	32.4	33.0	34.7	35.9	33.2 (20.7)
建設	40.7	41.5	43.3	43.1	43.6	43.7	38.5 (28.1)
製造	49.4	47.3	51.2	50.0	51.3	50.2	38.1 (30.8)
卸売	19.1	26.3	27.8	31.6	33.6	26.6	32.3 (25.0)
小売	14.5	15.5	17.6	18.1	22.3	26.2	28.5 (10.5)
サービス	19.3	23.5	25.1	26.4	27.1	31.4	30.8 (15.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が8カ月連続で強まった。産業別にみると、製造、卸売で上昇超感が弱まる一方、他の3業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	0.2	0.2	2.3	1.3	0.9	0.3	3.6 ( 3.0)
建設	17.0	17.9	16.6	16.7	13.6	15.0	17.3 ( 13.7)
製造	1.4	2.0	1.7	0.5	0.5	1.7	5.8 ( 4.7)
卸売	1.2	3.1	4.3	7.7	7.2	1.3	9.6 ( 8.3)
小売	6.4	6.0	3.0	4.2	6.6	5.3	2.6 (2.3)
サービス	3.4	2.7	0.5	2.9	0.5	0.5	2.9 (1.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が3カ月連続で弱まった。産業別にみると、建設で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まったものの、製造で不足超感に転じ、サービスで横ばい、卸売で過剰超感が弱まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、建設、製造、卸売で過剰超感が強まる一方、小売、サービスで不足超感が強まる見通し。



## 【平成19年10月の景気キーワード】

### 悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「受注の減少による価格競争の激化が、資金繰りにも影響している」(帯広・一般工事)、「建築基準法の改正により工事着工に遅れが生じるなど、今後の影響が懸念される」(草津・一般工事)、「全体的に受注量減少のため売上高も減少し、先行きの見通しは厳しい状態」(加茂・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「年末年始に仕入単価がさらに上昇する見込み」(土佐清水・食料・飲料卸売)、「来客数、売上とも減少傾向に歯止めがかからない」(久留米・商店街)、「食料品等の値上がりによる採算の悪化に加え、今後は灯油価格の上昇が懸念される」(土別・旅館)といったコメントが寄せられている。

### 仕入コスト上昇

また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「仕入単価の上昇を受注価格ではカバー出来ず、相対的に利益を圧迫している」(上越・電気工事)、「価格転嫁が難しい中、印刷用紙の値上げが実行され、コストダウンが課題となっている」(岩見沢・印刷)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「原油の高騰により値上がりする商品が多数出ているが、販売価格に反映できず、利益の減少につながっている」(臼杵・その他の小売)、「昨年同月よりも売上は増加しているが、原材料コストも上昇しているため、採算は昨年並」(春日部・そば・うどん店)といったコメントが寄せられている。

### 気温低下の影響

一方、9月までの残暑による悪影響と対照に、気温の低下による好影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「10月に入り、衣料品の売上が一気に増加。パート、アルバイト不足が続いている」(甲府・商店街)、「ようやく秋冬物衣料品が動き出した」(京都・商店街)、「温かい食品の売行きが好調」(古河・百貨店)、「気温の変化と共に、衣料品が回復傾向」(大川・その他の小売)といったコメントが寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
19年	8月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	猛暑の影響
	9月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	残暑の影響
	10月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	気温低下の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「全体的に仕事量が減っており、依然として厳しい状況」(建築工事)「仕入単価や石油製品の上昇に伴い、昨年に比べコスト高となっており、採算は厳しい状況」(一般工事)「公共・民間問わず、受注工事の減少、受注単価の低迷が著しい」(建築工事)「改正建築基準法により、発注数の減少や、工事着工に大幅な遅れが生じている」(管工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上・採算D Iは2カ月連続で拡大した。「資材費や燃料費、運送費の値上げ改定があり、採算状況は厳しくなっている」(水産食料品製造)「売上が悪化し、年末年始の需要も期待できない状況」(他の輸送用機器製造)「一部大手は非常に多忙だが、中小製造業は受注が少なく、相変わらず厳しい状況」(電気機械製造)「業況が回復しておらず、従業員も過剰状態」(金属加工機械製造)「原材料の値上げ分を販売価格に転嫁できず、厳しい状況」(金物類製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月連続で縮小した。「個人消費の行方が不透明で、年末に向けて不安材料が多い」(農畜産水産物卸売)「仕事量が減少しており、先行きに不安を感じる」(建築材料卸売)「建築基準法の改正による建築確認申請許可の遅れの影響で、売上が減少している」(各種商品卸売)「仕入単価の上昇に伴い、運送費、包装資材等の物流に関する諸費用の値上げが続いている」(他の卸売)「原材料価格の高騰により、製品価格の上昇が予想される業種もあり、今後も動向に注目する必要がある」(農畜産水産物卸)「受注単価が前年に比べて低下しており、利益確保に苦慮している」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iはマイナス幅が横ばい、売上D Iは2カ月ぶりに縮小、採算D Iは5カ月連続で拡大した。「原油や農作物価格の高騰等によるコストの上昇が懸念され、より一層厳しい状況となることが予想される」(百貨店)「売上が前年同月と比べ2割以上減少する店が出るなど、非常に厳しい状況」(商店街)「大型ショッピングセンター出店の影響により、パート従業員の確保が難しくなっている」(商店街)「冬物商戦に期待しているが、仕入先からの値上げ要請の本格化が予想され、不安を感じている」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iのいずれも2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「同業他社の進出が相次ぎ、厳しい状況」(旅館)「連日、原油価格が最高値を更新し、経営は危機的状況」(運送業)「仕入単価の上昇に伴い、販売単価の値上げの検討が必要」(食堂・レストラン)「重油・ガソリン仕入価格の上昇により採算は悪化、売上増により何とかカバーしているが、今後の見通しは不安」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、中国、四国でマイナス幅が縮小したものの、他の6ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

ブロック別の向こう3カ月(11月~1月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。なお、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全 国	25.1	29.5	32.8	32.0	33.6	34.9	29.8 ( 20.7)
北 海 道	33.1	33.3	36.4	37.1	35.5	39.8	32.0 ( 31.3)
東 北	28.3	32.1	36.6	31.7	34.8	39.0	38.5 ( 29.9)
北陸信越	27.0	33.9	39.2	30.3	34.9	31.6	31.1 ( 13.3)
関 東	18.5	24.1	29.3	27.8	30.3	31.7	27.8 ( 18.8)
東 海	28.5	24.4	28.6	30.2	32.9	33.1	26.5 ( 14.3)
近 畿	25.1	26.9	31.1	31.4	32.2	37.1	30.9 ( 23.5)
中 国	30.3	35.7	36.6	39.8	44.0	38.8	31.6 ( 26.1)
四 国	29.9	41.5	33.9	43.1	42.3	35.3	32.3 ( 21.3)
九 州	21.3	28.0	32.0	29.5	26.1	35.1	23.4 ( 15.8)